

記者会見スピーチ

■自己紹介

1【自己紹介と会社設立】

本日は、弊社「株式会社フェニックス」と「淡島ホテルグループの責任を追及する債権者の会」と共同記者会見に多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は、本年11月16日に設立した株式会社フェニックスの代表取締役の杉森大樹と申します。

私は、平成15年に株式会社淡島ホテル宿泊部ベルボーイとして入社し、約18年間、この淡島ホテルで勤務してまいりました。

設立にあたっては、淡島ホテルの元会員様や債権者様方で結成された「淡島ホテルグループの責任を追及する債権者の会」の皆様には多大な支援と協力を頂きました。

この場を借りて心から御礼を申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願いするものです。

■会社設立の経緯

2【会社設立の経緯】

淡島ホテルには、ホテルをこよなく愛する会員様をはじめ、多数のお客様、取引先の皆様、ホテルを愛するスタッフがおります。

私たちスタッフは、そのお客様の笑顔に接することで、ホテルマンとしての誇りとやりがいを感じながら、日々業務に当たってまいりました。

また、特別な立地条件の中、船での移動、贅沢な館内、難しいオペレーションの中、多くのホテルマンが学び、また多くのホテルマンを育て上げてまいりました。

2018年4月以前の旧オーナーの時代よりしばしば給与の遅配、欠配する事態がありましたが、オーロラグループが株式会社淡島ホテルを買収した際には、私たちの給与遅配も解消され、救世主が現れたものと喜びました。

ところが、1年半を過ぎたころ私たち幹部社員の耳に入ってくる情報

は、私たちスタッフの目指すべきホテルの方向と真逆のものでした。

今般、株式会社オーロラとその関連会社が、当淡島ホテルを運営してきましたが、裁判所により事業譲渡が無効と判断され、オーロラグループは淡島ホテルから撤退する運びとなりました。

私たちは、破産管財人からの委託を受けて、ホテルの売却手続きが完了するまでの間、淡島ホテルのスタッフが、暫定的にホテル運営を継続することにより、ホテル建物設備の維持保全を行うことになりました。その受け皿会社として設立したのがこの株式会社フェニックスです。

■休業に至った経緯

4【取引先業者を犠牲】

徐々に月末に取引先の皆様にお支払いするための資金の送金が無くなり、ホテルの直接管理する資金より支払いをサイクルするようになりました。

飲食関連、客室関連、設備関連、燃料関連の仕入れ代金の未納が続き取引先業者の皆様には、多大なご迷惑をおかけしています。

ホテルは、取引業者の皆様の協力の上に成り立っています。その大事な仲間である業者の皆様への支払いを、いつも後回しにする行為は許されません。

5【働くスタッフを犠牲】

そして、最後に、この9月以降、私たちスタッフの給与は一部の支払い後、支払われておりません。

9月22日以降、9月のホテルスタッフの給与の件を確認したところ、「出所後に上乘せして支払います。大金は本人でないと動かさないため」と回答がありました。その後緊急で幹部会を開催し、翌日全スタッフを招集し話をしました。怒りと悲しみはあったものの、2週間ほどでなにか進展があると聞いていたのでスタッフたちは、信じて待とうと決めていました。

10月13日の再逮捕を受け、再度9月支給給与の件をオーロラ担当者に回答を求めましたが、回答が来たのは5日後の夕方でした。

「ワン・リゾートの給与は出所時に支給する」それだけでした。

翌日、全スタッフを招集し話をしましたが、信じて待っていた気持ちを裏切られ、さらに2週間後には10月支給給与の日がせまり、怒りと絶望感、先の生活への不安で押しつぶされる思いでした。

10月26日、私は幹部社員ら数名とともに、取引業者と全スタッフを代表してオーロラの本社に、未払いになっている支払債務や給与に充てるため、オーロラグループが保有しているホテルの売上金をホテルに返却するよう申し入れを行いました。オーロラ担当者の回答は、「社長の承認がなければ支払えない」という無責任なものでした。

11月10日、オーロラグループの社員らがホテルを訪れ、私を含む3名の幹部社員は、ワン・リゾート株式会社から「業務上横領及び会社を転覆させる重大な背任行為を行った」として、懲戒解雇処分となりました。同時に、わずかに残っていた現場管理の預金通帳を、印鑑やパソコンとともに持ち去っていきました。

私たちは、横領などしておりません。目の前に迫る取引先の皆様へのお支払い、スタッフの未払いの給与を売上金の中より捻出しようとしただけです。

懲戒解雇に関しては、告知聴聞（こくちちょうもん）・弁明（べんめい）の手続もありません。

明らかに不当な解雇であり、私たちはその撤回を求めます。

取引業者・スタッフを犠牲にする経営に対してこれを是正していくことが背任行為（はいにんこうい）なのでしょうか。

クレジットカードの売上入金、先の予約の前受け金を充てにし、スタッフの未払い給与の一部支払い、運転資金に充てる予定が、預金通帳を持ち去られたことにより不可能となり、スタッフも心身ともに疲弊（ひへい）し、また生活の限界がせまり、急遽休業をせざるをえない状況となりました。

■今後の営業再開の見通しについて

6【経営理念】

これからホテルの再生を目指す株式会社フェニックスは、みなさんに3つのお約束をしたく、これを経営理念という形でまとめました。

- ① 宿泊されるお客様に最高のホスピタリティの提供を通じて、至福のくつろぎ空間を提供し、お客様の豊かな人生をサポートする。
- ② ホテル事業に関係する取引事業者、支援者らステークホルダーの利益を尊重し、ホテル事業の再生を通じて、地域経済と日本の観光産業の発展に寄与（きよ）する。
- ③ ホテルを愛し、お客様の笑顔を見るために働く全スタッフのために、生きがいとやりがいと誇りを感じて働ける最高の職場づくりを目指す。

7【課題】

しかし、ホテルの再生を目指す私たちには、乗り越えなければならない大きな壁があります。その壁を乗り越えるために、皆様のご支援とご協力が必要です。

それは、再スタートを切るための運転資金とスタッフ確保の問題です。ホテルの売上を管理します預金通帳を持ち去られたことにより、資金はゼロどころか、仕入れ代金、水道光熱費、給与も未払いの状態です。マイナスからのスタートです。

また、スタッフは、国の制度を受けながら再スタートへの合流を期すしかありません。

スタッフにも生活があります。

親を介護しながら働く仲間もいます。

子どもの教育費もかかります。

家賃もかかります。

いまは、生活を立て直し、生活を安定させてください。

必ずスタッフの皆さんを愛する淡島ホテルの職場に呼び戻します。

明日からでも再生のために合流したいという思いはあっても、現実はそのようなものではありません。

現在私たちは、一日でも早く再開できるように、体制を整え、また運転資金の調達に奔走（ほんそう）しているところです。

ホテル事業が軌道に乗り裁判所の期待に応えるためには、ホテルの稼働を安定させ、経営を安定させていく必要があります。

本日、この場に集まれた皆様が、それぞれの立場で私たち新会社の出発をご支援いただくことを心からお願いする次第です。

8 最後に

私たちは、新会社の商号を「フェニックス」と命名しました。

これは、どんな大きな困難があろうとも、お客様・取引先・スタッフの笑顔を取り戻すために、淡島ホテルを不死鳥のように必ず蘇えらせる、という決意がこめられています。

将来に向けて大きな展望を持っていますが、今は瀕死の傷を負っています。

どうか皆様。フェニックスにお力をお貸してください。どうか応援をよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

以上